

カリキュラムマップ（日本語日本文化学科）

日本語日本文化学科のカリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）
<ol style="list-style-type: none"> 正しい日本語と奥深い日本文化を基礎から幅広く学び、将来に役立つ資格・技能の取得をめざし、3つのコースを設ける。 視聴覚コミュニケーションコースでは、コミュニケーションに関する知識と教養を深め、口頭表現や文章表現の能力を高め、コミュニケーション産業で必要とされる能力を身につける。 ホスピタリティコースでは、ホスピタリティに関する知識と教養を深め、さまざまな実習や視察、インターンシップ等を通してホスピタリティ産業で必要とされる能力を身につける。 日本語日本文化コースでは、日本語・日本文学・日本文化についての知識と教養を深め、国語科教員・日本語教員として必要とされる能力を身につける。

日本語日本文化学科のディプロマポリシー（学位授与の方針）
<ol style="list-style-type: none"> 知識・理解 <ol style="list-style-type: none"> 日本語・日本文学・日本文化について、その歴史的背景を含め、客観的・科学的な知識と教養を身につけている。 日本語の口頭言語および書記言語の双方で、高度で実践的なコミュニケーションに関する知識と教養を身につけている。 日本のみならず広く人間文化の根幹をなす、他者の尊重を軸とするホスピタリティ精神に関する知識と教養を身につけている。 汎用的技能 <ol style="list-style-type: none"> 日本語・日本文学・日本文化に関するさまざまな問題について、それらを複眼的、論理的に分析し、的確に表現するとともに、他者を教え導く論理的思考力を身につけている。 日本社会に関するさまざまな情報を収集・分析する情報リテラシーにくわえ、それらを書記言語・口頭言語を問わず適切に発信できる高度で実践的なコミュニケーションスキルを身につけている。 人間相互の心の通った交流を軸とするホスピタリティ精神にもとづき、相手の立場によりそいつつ現状を見直し、さらなる改善をはかる問題解決力を身につけている。 態度・志向性 <ol style="list-style-type: none"> 自らの力でつねに新たな日本語や日本文化の動向を理解し、また知識や能力の習得に努め、自らの問題解決に応用することのできる生涯学習力を身につけている。 自己の意見を表出しつつ、他者の意見を傾聴し、他者と連携して問題解決にあたるチームワークを身につけている。 社会にある多様な価値観を認め、他者との協調を重視しつつ自らの価値観を保持する高い倫理観を身につけている。 統合的な学習経験と創造的思考力 <ol style="list-style-type: none"> 過去から未来へと続く日本文化に育まれた精神を見据え、かつ多角的な視点から自らをとりまく社会の本質を捉える能力を身につけている。 高度で実践的なコミュニケーションスキルを活用しつつ、現状の問題を認識し、その解決にあたる能力を身につけている。

日本語日本文化学科のカリキュラム							カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを達成するために ◎ 特に重要な項目 ○ 重要な項目 △ 履修することが望ましい項目				
授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
基礎演習	大学での学習に必要な「情報収集力」「読解力」「分析力」「プレゼンテーション力」などを身につける。話す・書くといった言語スキルの向上を目指す。自分の生きかた、職業選択等について考える契機とし、4年間の過ごし方を考える。基本的な学力およびマナーを身につける。	大学生活での基本となる知識とそれへの理解を深めた上で、大学生活を有意義にするためへの創意工夫や授業への積極的参加ができるのを、第一の目標とする。具体的には、①情報検索・資料収集力、②文章作成力、③読解力、④プレゼンテーション力、⑤コミュニケーション力を身につけることができるようになる。あわせて、基礎的な学力を養成する。	2○	1	前期	1	グループ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	◎			
日本文学・文化入門	(1) 主要な古典文学を題材に、古典文学・文化の豊かさを知り、読みの方法について考える。(2) 現代の文学を(読む)ために、それを支える基盤である「近代文学」が成立していく過程を学ぶ。「近代小説」という新ジャンルを立ち上げるためになされたさまざまな文学的挑戦を、作家の生きた時代状況と重ねながら読みこころを試みる。	(1) 古典文学・文化のおもしろさや価値を知り、また古典文学の読みの方法がわかる。古典文学作品一つ(または一部)を読み通す体験をもつ。(2) 文学作品を研究するうえで必要となる基礎的な概念、手法を理解し、活用できるようにする。	2○	1	後期	1	グループ・ディスカッション、発見学習	◎	○		
日本語学入門	この授業では、自分達の母語である日本語の基礎知識を習得する。テキストにそって、日本語の音声・文字・語彙・文法・方言など、それぞれの分野について、順次理解していく。1年生にとっては必修科目であり、身近なことばの問題を出発点にして、日本語の勉強をすすめていき、日本語日本文化学科での学習で各自が活用することを目指す。	日本語の基礎知識を知り、それを正確に理解することが、第一の目標である。実際の日本語の実例から日本語学上の問題点を見出して何が問題なのかを把握するのが、第二の目標である。最終的には、自分自身の手で興味深い日本語の実例を発見収集して、その意義が説明できるようになるのが授業の到達目標である。	2○	1	前・後期	1	グループ・ディスカッション、グループワーク、	◎	○	△	△
ホスピタリティ入門	ホスピタリティとは何か、ホスピタリティとサービスの違い、なぜ現代社会においてホスピタリティが重要とされているかを理解する。社会の様々なシーンにおけるホスピタリティを検証、認識し実社会におけるホスピタリティマインドを身につける。	1ホスピタリティの基本的な概念を理解する。 2ホスピタリティ・マインドを身につけ、社会で活かせるようにする。	2○	1	前・後期	1	グループ・ディスカッション、グループワーク、問題解決学習	◎	○	○	◎

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
日本語の文章表現	この授業では、少人数のクラスで、これからの大学生活に必要な日本語表現力を身につけるとともに、基礎的な学力の養成をはかり、さらには就職活動や社会人生活でも役に立つ能力を養成する。大学生や社会人にとり、レポートをはじめとする論理的な文章を作成する力は必須のものであり、以降の大学生活を有意義に過ごすためにも、ぜひとも身につけてほしいものである。なお、この文章表現のクラスは2年前期の基礎ゼミとしての性格を持つものでもあり、その点にも留意して、受講生には授業に積極的に参加してほしい。	論理的な文章作成のための基礎知識の習得と論理的な文章作成能力を身につけることができるのを第一の目標とする。さらに、インターネットや書籍などから自分の卒業研究のテーマを決め、どのような方法を取るによって、どのような成果が期待できるかまでの見通しを文章化する。あわせて、社会人として自立して生きていくための日本語力、基礎的な学力を養成する。	2	2	前期	2	グループ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	◎	◎	○	○
日本語日本文化基礎演習	卒業論文の執筆を視野に入れて、基本的な研究の方法について学ぶ。テーマの設定、文献の検索・利用方法、調査方法、発表の技法などを身に付けながら、自分の研究分野・研究テーマ、あるいは制作の基本方針を固める。	自分の研究テーマにしたがって資料収集と分析、プレゼンテーションができる。他者のプレゼンテーションを理解した上で、討論ができる。	2	2	後期	2	体験学習、グループ・ディスカッション、プレゼンテーション	◎	◎	○	
日本語の音声・音韻	この授業では、日本語の音声について、その基礎から理解することを目指す。授業内容は、音声・音韻・発声器官・母音・子音・特殊拍・拍と音節・アクセントリズム・イントネーションと、日本語の音声に関わる基礎的な事項について、毎回の講義の内容を把握し、理解を深める。とりわけ、国語の教員免許を受講する者は、必須の科目として、正確な知識を習得することが不可欠である。	日本語音声の基礎知識の習得し理解することができるのを、第一の授業目標とする。さらに、その知識を、実際の日本語音声資料の分析にも活用し、最終的には、国語科の授業や日本語教育での指導においても、その知識を正確に授業で教えることができるのを、到達の目標とする。	2	2～	前期	2	グループ・ディスカッション、グループワーク	◎	◎	○	△
日本語の文法・文体	この授業では、現代日本語の共通語の文法について、その基礎知識と考えた方を習得する。これは、日本語教員になるための基礎知識として、不可欠ものである。また、国語の教員免許取得を目指す者にとっても、必要な知識である。この授業での文法は、高校時代の英文法や古典文法とはちがいが、考える文法である。知識を暗記するのではなく、自分たちの使用している日本語がどのようなルールで運用されているのかを理解し、さらには、それを他者にも説明できることは、頭脳の知的な鍛錬として有効なものと考えている。	この授業では、学科の知識理解の側面としての「日本語運用能力の向上」が第一の目標である。また、汎用性技能として、習得した知識を「説明する力」を習得することも重要な目標である。さらには、日常使用する言語の実例を観察して、そこから何らかの法則性を発見することから、「問題解決能力の向上」も、身につけたい到達目標として、設定している。	2	2～	後期	2	グループ・ディスカッション、グループワーク	◎	◎	○	△
日本語の方言	日本語の方言についての基礎知識を学習する。さらには、これから先自分自身で方言の問題を考えていく際に、どのような点に注意すべきか、というような、方言研究の方法についても学ぶ。方言研究は、21世紀になって、従来の地元という言葉を記録するということから、地域の言語の動態、そのものを探る方向に変化してきている。そのような最新の動向についても、学んでいく予定である。	まずは、日本語の方言について、大学生レベルで知っておくべき知識を習得することを第一の目標とする。さらには、その学んだ方言の知識を、まだよく知らない人にも伝えられるような、説明能力の習得も不可欠である。そして、最終的には、日本語の方言研究での具体的な研究テーマを見つけていくことができることが望ましい。	2	3～	後期	3	グループ・ディスカッション、グループワーク、問題解決学習	○	◎	◎	△
日本語の語彙・文字・表記	日本語の表記は、「NHKでサッカーの試合を見た」のように、平仮名、片仮名、漢字、ローマ字と、4種の文字を使いこなしたり、縦書きと横書きを場合によって使い分けたりと、他の言語には見られない特徴がある。複数の文字を使い分ける背景には、漢字の伝来や「日本語を記そう」という創意工夫、平仮名と片仮名の成立が関わっている。また、縦書きと横書きが使い分けられるに至った背景には、日本語と外国語との出会いが関わっている。身近な問題を見ても、ローマ字で「つ」を書く際に「tsu」と「tu」のいずれを用いるべきか、また「邁進」の「邁」と「進」の部首は同じであるにもかかわらず、なぜ点の数が異なるのかなど、表記をめぐる問題は少なくない。日本語の表記について、古代から現代への変遷を知ると同時に、現代の日本語表記の特徴や諸問題について理解を深める。	日本語の表記の特徴を知り、それが最初からあるべくしてあったわけではなく、時間の流れの中で作り上げられてきたものであることを理解する。また、自分自身、そして身の回りの日本語の表記について客観的に見る視点を養う。	2	1～	後期	1	調査学習、グループ・ディスカッション	◎	◎	◎	
日本語教育学入門	日本語教師にはどのような能力が求められるかを知り、日本語教師になるために身につけなければならない技能・知識など今後の学習の方向性を把握することを目的とする。また、2年次以降の日本語教育学関連科目を学ぶ前に知っておくべき基礎的な知識を習得することを目的とする。	日本語教師と日本語教育について基本的な知識を身につける。日本語教育の概要が理解できる。日本語教師に求められる日本社会や世界を見る力、異文化を考える力の基礎を身につける。	2	1	後期	1	グループ・ディスカッション、グループワーク	◎	○	◎	△

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
日本語教授法	日本語を「外国語」として教えるための基本を学ぶ。どんな学習者がいて、どのように教えられているのか、どのように日本語を教えるべきなのか、教えるときどのようなことを知っているなければならないのか、方法、対象、内容などの概要を学ぶ。	左記を学ぶことを目的とする。	2	2～	前期	2	調査学習、グループワーク、模擬授業	◎	◎	○	△
日本語教育指導論	日本語を「外国語」として教えるための方法を学ぶ。初級の内容を中心に、前期で学んだことを踏まえて、より実践的に日本語を教える方法を学んでいく。	実際の日本語クラスや学習者の実態を理解しながら、日本語教育の立場での考え方や説明の仕方を意識できるようにする。	2	2～	後期	2	調査学習、グループワーク、模擬授業	◎	◎	○	△
日本語の歴史	この授業では、日本語の歴史を文法面での歴史的な変化を理解する。日本語は文献でも1500年以上の歴史をたどることが可能である。授業では、まず、日本の歴史を再確認したうえで、政治・経済の歴史と日本語の歴史がどのように関連するかを見つらうえて、個別的な現象を具体的に把握して、各人が理解していく。	日本語の歴史の基礎知識と文法上の事項について正確に理解することができるのが、第一の目標である。さらには、日本語史の言語資料からそこにおける問題点を見つけ出してその意義を判断できるようにするのが、第二の目標である。最終的には、自分自身で興味をもって日本語史の資料に触れたうえで、その意義や問題点を正確に説明することができるようになるのを、最終的な到達目標とする。	2	3～	前期	3	グループ・ディスカッション、グループワーク、問題解決学習	○	◎	◎	△
日本語教育授業研究	日本語教師養成プログラムの一環として、初級の学習者に文法説明をするための基礎的な知識を学ぶ。また、授業での文法導入の方法などを学ぶことを目的とする。	初級の文法項目について知り、授業での文法導入ができる。日本語運用能力を身につけるための効果的な練習問題、コミュニケーション活動が作成できる。教案を作成し、授業をすることができる。	2	3～	前期	3	体験学習、模擬授業、グループワーク		◎	◎	○
日本語教育と学習者	日本語教師養成プログラムの一環として、初級だけでなく中級・上級の学習者に対する授業の内容・方法などを理解することを目的とする。	初級だけでなく中級・上級の学習者に対する日本語の授業ができる。多様なレベル、ニーズ、技能に合わせた授業ができる。	2	3～	後期	3	体験学習、模擬授業、グループワーク		◎	◎	◎
日本語教育実習研究	3月に実施される海外日本語教育実習に向け、日本語を教えるために必要な知識、自分で自分の授業を客観的にふり返り改善していく力、実習先である韓国の文化、社会、現地の日本語教育事情などを理解する。	教師として一人でレッスンプランを立て、学習者のレベル、ニーズに合った日本語の授業ができる。	2	3	後期	3	体験学習、調査学習、模擬授業、グループワーク		◎	◎	◎
日本語教育実習	学習者のレベル、ニーズに合った日本語の授業ができるようになることを目的とする。また、実習先の韓国の文化や生活を理解し、異文化に対する理解を深め、異文化コミュニケーションのあり方について考えることを目的とする。	教師として一人でレッスンプランを立て、学習者のレベル、ニーズに合った日本語の授業ができる。異文化の中で異なるバックグラウンドを持つ人々との交流を通して、自文化と異文化に対する理解を深める。	1	3	後期	4	体験学習、調査学習、模擬授業、グループワーク		◎	◎	◎
書道・書道史Ⅰ	中国の書道史を学び文字の歴史を知る中国の書法を通してその書美の習得を目指す	毎時間実習作品を提出する	2	1～	前期	1	体験学習、調査学習	◎	◎		
書道・書道史Ⅱ	日本の書道史を学び文字の歴史を知る日本の書法を通してその書美の習得を目指す	毎時間実技の時間を設け、課題を書き、特徴を習得する。	2	1～	後期	1	体験学習、調査学習	◎	◎		
日本古典文学史	現在の日本文学・文化はどのような歴史・変遷を経て、今に至っているのか？その社会の大きなうねりや事件、当時の人々の意識の変化も見逃すことはできない。本授業では、日本古典文学(神話から江戸時代まで)の流れを、その時代背景や歴史とともに明らかにしたい。加えて、古典文学を代表する文学作品の一部を鑑賞し、その魅力に接する。	本授業の目標は、①日本の歴史や時代の変遷について体系的に学ぶ②古典作品や作者についての理解を深める③作品の特質を知り、現在まで伝えられた魅力を理解する④古典文学に対し関心を持ち、生涯に渡って古典を楽しむ姿勢を持つ⑤作品を鑑賞する力を養い、それを文章にして表現できるである。	2	2～	前期	2	グループワーク・体験学習、調査学習	◎	○	◎	
古典文学入門	1 古典文学の基礎知識を習得する2 変体仮名に慣れる	1 古典文学の世界を知り、主体的に読むことができる 2 変体仮名がある程度読める3 古典文法がわかる	2	1～	後期	1	体験学習、発見学習	◎		○	
古典文学講読	1 現存最古の歌集である『万葉集』には古代社会に生きた人々の生の歌声が満ちている。恋愛や死、宴や旅などの歌がある。名歌を取り上げて、それを味読する。 2 主体的に古典を読むために、受講生の発表の機会をもうける。(ただし、受講人数にもよる)	1 古代文学を代表する万葉歌の文学性が理解できる。 2 古典の読解法の基礎を学び、自らの読みをまとめ、発表できる。	2	2～	前期	2	体験学習、発見学習、プレゼンテーション	◎		○	
日本古典文学・文化A	『源氏物語』が成立しておよそ1000年経つが、今もその内容は多くの人々を魅了し続けている。①1000年前に書かれた『源氏物語』とはいったいどのような物語なのか②何故1000年間読み続けられたのであろうか③作者の『源氏物語』に託したものは何かなどを考察する。前期は、『源氏物語』の書かれた時代背景や風俗を含め、『源氏物語』正編の光源氏周辺の人物を中心に理解する。	『源氏物語』に関して、基礎的な知識・内容について知り、理解できるようになることを目的とする。それに加えて①古典文学への理解を深め、生涯に渡って古典を楽しむ態度を身に付ける②日本文化の魅力を、人に伝えることができる③問題意識を持って、作品講読に取り組むようになる④問題点を見出し、人に説明する力を養う⑤自分の考えをまとめ、文章にすることができる⑥人の意見を聞く力を養うようになる。	2	2～	前期	2	発見学習・体験学習	◎	○	◎	

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
日本古典文学・文化B	『源氏物語』が成立しておよそ1000年経つが、今もその内容は多くの人を魅了し続けている。①1000年前に書かれた『源氏物語』とはいったいどのような物語なのか②何故1000年間読み続けられたのであろうか③作者が『源氏物語』に託したものは何か④『源氏物語』は未完なのか、それとも完成された物語なのかなどを考察する。『源氏物語』に描かれた風俗をはじめ、特に宇治を舞台にした巻々「宇治十帖」に登場する人々について理解する。	『源氏物語』に関して、基礎的な知識・内容について知り、理解できるようになることを目的とする。更に ①古典文学への理解を深め、生涯に渡って古典を楽しむ態度を身に付ける ②日本文化の魅力を人に伝えることができる ③問題意識を持って、作品講読に取り組むようになる ④問題点を見出し、人に説明する力を養う ⑤自分の考えをまとめ、文章にすることができる ⑥人の意見を聞く力を養うようになる。	2	2～	後期	2	発見学習・体験学習	◎	○	◎	
日本古典文学・文化C	日本文学や日本文化に関する幅広い知識を身につけ、その魅力を日本文学や日本文化に興味を持つ人々に伝えられることを授業のねらいとする。	日本古典文学を代表する作品の一つである『平家物語』について知り、その魅力を理解・説明できることを目標とする。	2	2～	前期	2	発見学習・体験学習	◎	○	◎	
日本古典文学・文化D	日本文学や日本文化に関する幅広い知識を身につけ、その魅力を日本文学や日本文化に興味を持つ人々に伝えられることを授業のねらいとする。	日本古典文学を代表する作品の一つである『平家物語』について知り、その魅力を理解・説明できることを目標とする。	2	2～	後期	2	発見学習・体験学習	◎	○	◎	
漢文学Ⅰ	1 テキストに従って詩経～唐代の代表的な漢詩を読み、鑑賞する。主体的に読むという意味で受講生の発表も行う。 2 基本的な漢文法を復習、また学習する。	1 漢文学の重要な達成たる漢詩が味読できる。 2 基本的な漢文法が理解できる。	2	2～	前期	2	体験学習、発見学習、プレゼンテーション	◎		○	○
漢文学Ⅱ	1 代表的な漢詩人、李白・杜甫・白楽天の詩を読み、鑑賞する。主体的に読むという意味で受講生の発表も行う。 2 基本的な漢文法を復習、また身につける。	1 古典文学の世界を知り、主体的に読むことができる 2 変体仮名がある程度読める3 古典文法がわかる	2	2～	後期	2	体験学習、発見学習、プレゼンテーション	◎		○	○
日本人は何を考えたのかⅠ	日本人は何を考えたのか、過去の日本にどのような思想が開いたかについて知り、基礎的な知識教養を得ることを目的とする。古代から近世までの通史に則り、日本思想を考察するが、前期は古代から中古までを考える。各時代の人々の精神や願望が具象化した芸術(絵画・建築物・美術品など)と行事などを紹介した映像資料を鑑賞し、理解を深める。	本授業では、①日本の歴史・思想についての正確な知識を学ぶ②仏教・神道・禅について理解し、その根底にある人々の願いについて理解を深める③現在国宝や重要文化財に指定されている物(無形・有形)の意義を知る④身近にある日本文化の起源を追及するなどを学び、⑤自分の考察・理解を文章で表現するようになる。	2	3～	前期	3	発見学習・体験学習	◎	◎	○	
日本人は何を考えたのかⅡ	日本人は何を考えたのか、過去の日本にどのような思想が開いたかについて知り、基礎的な知識教養を得ることを目的とする。古代から近世までの通史に則り、日本思想を考察するが、後期は中古から近世までを考える。各時代の人々の精神や願望が具象化した芸術(絵画・建築物・美術品など)と行事などを紹介した映像資料を鑑賞し、理解を深める。	本授業では、①日本の歴史・思想についての正確な知識を学ぶ②仏教・神道・禅について理解し、その根底にある人々の願いについて理解を深める③現在国宝や重要文化財に指定されている物(無形・有形)の意義を知る④身近にある日本文化の起源を追及するなどを学び、⑤自分の考察・理解を文章で表現するようになる。	2	3～	後期	3	発見学習・体験学習	◎	◎	○	
日本近代文学史	日本近代文学の歴史(明治・大正)について概観する。	近現代文学の知識を再確認し、近代思潮の流れを掴むことができる。	2	2～	後期	2	グループ・ディスカッション、プレゼンテーション	◎		○	○
日本近代の文学A	古今東西にある物語には共通する構造がある。本講義では、物語の構造を理解することで物語そのものの意義を理解し、物語を楽しむ視野を広げることを目的とする。	日本近代文学作品の特に〈異界〉を扱った物語を読み、その構造を理解する。日本古来の文化に親しみ、歴史的意義などについて説明できる。	2	2～	前期	2	発見学習、グループ・ディスカッション	◎	◎	○	
日本近代の文学B	関東大震災という衝撃後、若い作家達が造りだした新しい文芸運動の起点として『文芸時代』が創刊されたのは、1924年である。本講義では、『文芸時代』で活躍した横光利一と川端康成の創作活動を中心に大正末から昭和初期にかけての散文表現の変革について、様々な視点から考察を加える。また、複雑化した人間関係の問題を作品から抽出し、われわれの現実と重ね合わせる。	日本近代文芸におけるモダニズム作品を読み、その芸術的かつ歴史的意義について論述する。・現実のわれわれの現実の問題と近代小説とを重ね合わせて読むことができる。	2	1～	後期	1	発見学習、グループ・ディスカッション	◎	◎	○	
日本現代の文学A	私たちが普段、自明のものとしている〈日本〉は、明治維新以降の近代に形成されたものであり、歴史的経緯によってさまざまな意味が与えられているばかりか、同じ時代であっても異なる認識をなされていた。この授業ではいくつかの文学作品をとりあげ、それらに含まれる〈日本〉とはどのようなものであるかを考察する。	現代の日本を形成するに至る変遷をたどりうるいくつかの文学作品の読解を通じて、下記の目標へ到達する。 (1) 文学作品を特定のテーマから考察する力を獲得する。 (2) 文学作品を通じて、〈日本〉についての新たな視点を獲得する。	2	2～	前期	2	グループ・ディスカッション、グループワーク	◎		○	○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
日本現代の文学B	小説作品を読むというのは、どのような行為なのだろうか。また、小説作品は、どのような背景をもって読者の前に現れるのだろうか。この授業では、いくつかの作品をとりあげ、その内容を読解するとともに、作品の成立した時代状況や社会的背景を考察にとりいれることで、小説を読むことを実践する。	具体的な作品をとりあげること、以下の目標に到達する。(1)小説作品を鑑賞、読解する力を獲得する。(2)小説作品の成立に関する時代状況や社会的背景を理解する。(3)さまざまな文脈のなかで小説作品が成立することを理解する。	2	1～	後期	1	グループ・ディスカッション、グループワーク	◎		○	○
児童文学研究Ⅰ	「マンガの神様」とも言われる手塚治虫の業績について、おいたちや作品の背景となったできごと、当時のメディア状況などから考え、戦後マンガの果たした役割について把握する。	文学作品としてのマンガの位置について、自分なりの視点を持つことができる。	2	2～	前期	2	グループ・ディスカッション、プレゼンテーション	◎		○	○
児童文学研究Ⅱ	いわゆる児童文学としてだけでなく、宮沢賢治の生涯と作品について、当時の岩手県環境や文化などの視点から考え、新しい宮沢賢治像を示す。	宮沢賢治を一つの例として、近代日本に対する新しい見方ができるようになることを目指す。	2	2～	後期	2	グループ・ディスカッション、プレゼンテーション	◎		○	○
芸能文化論Ⅰ	江戸時代は庶民が中心となる文化が開いた。そうした文化に歌舞や人形浄瑠璃といった芸能がある。これら芸能の内、歌舞伎を中心にどのように生まれ人々に親しまれていったのかを学び、現代まで愛される理由について考えていく。	「日本の古典芸能とは何か」を文献だけではなく、当時描かれた絵画や浮世絵、そして今日の映像資料でたどり、芸能の実態を理解することを目標とする。	2	2～	前期	2	体験学習、発見学習	◎	◎		
芸能文化論Ⅱ	江戸時代は庶民が中心となる文化が開いた。そうした文化に人形浄瑠璃(文楽)と落語といった芸能がある。これら芸能がどのように生まれ人々に親しまれていったのかを学び、現代まで愛される理由について考えていく。	「人形浄瑠璃・落語とは何か」を文献だけではなく、当時描かれた絵画や浮世絵、そして今日の映像資料でたどり、芸能の実態を理解することを目標とする。	2	2～	後期	2	体験学習、発見学習	◎	◎		
アナウンス入門	伝えているはずなのに相手に伝わっていないという経験はありませんか。この授業では、「どうすれば伝わるのか」を考えることからアナウンスメントをとらえ、読む、話す、聞くことの基本を学びます。アナウンスメントにおいて重要な要素は「声」です。自分の声を知り、呼吸法や発声法を習得しながら「人前で話す」「声に出して文章を読む」行為に慣れることをねらいとします。これらは、円滑な言語生活を送るうえで、重要な手立てとなるはずです。	アナウンスメントというのはどういうことなのか。その意味内容を理解することが第一の到達目標です。アナウンスメントに適していると言われる「腹式呼吸、言葉をはっきり発音する滑舌の練習ができるようになること。そして、共通語のアクセントやイントネーション、プロミネンスなどの基礎的な音声言語表現技術を理解して、「人前で話すことに慣れる」「読みの基礎」「話し方の基礎」が身につくようになることを目標にします。	2	1～	前・後期	1	発声・滑舌練習、課題スピーチ、発表	◎	○		◎
人間関係トレーニング	現代社会は人間同士のコミュニケーションや人間関係を分断する方向に向かっているかもしれません。そんな中、企業が求めている人材は、技術力や知識、語学力だけでなく、人間関係を上手に持てる人材です。授業ではゲームや体験を中心としたワークショップを中心に進め、一人一人の気づきを大切にします。	自分を知る、他人に気づく、良い人間関係が作れる事を目指します。	2	1～	前期または後期	1	体験学習、グループワーク	◎		◎	
笑いの講座Ⅰ	「笑い」の芸能である落語、漫才、喜劇等は、今日、放送、ライブその他にあふれる「笑い」の原点であり、それ自体が文化である。また、笑いを知ることは、人とのコミュニケーションに役立つ。この講座では笑いの文化のその歴史と技術を知識として理解することを目的とする。	日本の笑いの文化について、知識としての理解を得る。	2	2～	前期	2	体験学習、グループワーク	◎		◎	
笑いの講座Ⅱ	「笑い」の芸能である落語、漫才、喜劇等は、今日、放送、ライブその他にあふれる「笑い」の原点であり、それ自体が文化である。また、笑いを知ることは、人とのコミュニケーションに役立つ。この講座では笑いの文化のその歴史と技術を知識として理解することを目的とする。	日本の笑いの文化について、知識としての理解を得る。	2	2～	後期	2	体験学習、グループワーク	◎		◎	
視聴覚コミュニケーション演習Ⅰ	視聴覚コミュニケーションにおいて、アナウンサーは大きな役割を担っています。時代にあったアナウンサーの役割や仕事の内容を理解し、言語表現技術に加え、立ち居振る舞い、所作、顔の表情などの身体表現を身につけることを目指します。さらに、インタビューや実況的レポートに慣れることで表現力を高めていくことを学びます。まとめとして、番組の制作実習を行い、お互いに講評しあうことで「話すこと・読むこと」だけでなく、アナウンサーとして最も重要な「聞く」能力を養うことも実習のねらいです。毎時、収録を行い実践的な授業を行います。	人前で堂々と文章を読むことができるようになること。アクセントやイントネーションを意識した読みができ、句読、ポーズ等の表現技術を理解してそれらを活かす表現をイメージできるようになること。インタビューやレポートなどに慣れること。他の人のアナウンスの講評が的確にできるようになること、時事問題にも関心を持つことを目標とします。	2	2～	前期	2	発声・滑舌練習、課題スピーチ、プレゼンテーション、番組制作	○	◎		○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
視聴覚コミュニケーション演習Ⅱ	アナウンサーの仕事・役割を理解し、視聴覚コミュニケーションにおいて、何が重要で、アナウンサーは何を求められているのかを学ぶ。アナウンサーの仕事は多岐に渡っていますが、基本の一つに、確かな読みの技術があることはいままでのない。この授業では、基本の読みに加えて、トークや表現力の向上を目指し、実習全体を通してアナウンスメントの要となる常識や国語力も積み上げていくことをねらいとする。最後に番組の制作を行い実習のまとめとする。	アナウンサーの仕事・役割を理解すること。アクセントとイントネーションを意識して読みの基本ができるようになること。日本語の使い手であることを認識し常識や国語力をつける訓練ができるようになることを到達目標とする。	2	2～	後期	2	課題スピーチ、プレゼンテーション、番組制作	○	◎		○
視聴覚コミュニケーション演習Ⅲ	視聴覚コミュニケーションにおいて、アナウンサーは大きな役割を担っている。時代にあったアナウンサーの役割や仕事の内容を理解し、言語表現技術に加え、立ち居振る舞い、所作、顔の表情などの身体表現を身につけることを目指す。さらに、インタビューや実況レポートに慣れることで表現力を高めていくことを学ぶ。まとめとして、番組の制作実習を行い、お互いに講評しあうことで「話すこと・読むこと」だけでなく、アナウンサーとして最も重要な「聞く」能力を養うことも実習のねらいである。毎時、収録を行い実践的な授業を行う。	人前で堂々と文章を読むことができるようになること。アクセントやイントネーションを意識して読みができ、句読、ポーズ等の表現技術を理解してそれらを活かす表現をイメージできるようになること。インタビューやレポートなどに慣れること。他の人のアナウンスの講評が的確にできるようになること、時事問題にも関心を持つことを目標とする。	2	3～	前期	3	課題スピーチ、プレゼンテーション、実況レポート、番組制作(グループ)	○	◎		○
視聴覚コミュニケーション演習Ⅳ	アナウンサーの仕事・役割を理解し、視聴覚コミュニケーションにおいて、何が重要で、アナウンサーは何を求められているのかを学ぶ。アナウンサーの仕事は多岐に渡っているが、基本の一つに、確かな読みの技術があることはいままでのない。この授業では、基本の読みに加えて、トークや表現力の向上を目指し、実習全体を通してアナウンスメントの要となる常識や国語力それに加えて時事問題や情報の批判的な捉え方等も積み上げていくことをねらいとする。最後に番組の制作を行い実習のまとめとする。	アナウンサーの仕事・役割を理解すること。アクセントとイントネーションを意識して読みの基本ができるようになること。日本語の使い手であることを認識し常識や国語力、情報の批判的な捉え方が身につく訓練ができるようになることを到達目標とする。	2	3～	後期	3	スピーチ、プレゼンテーション、取材、番組制作(グループ)	○	◎	◎	
パブリックスピーキングⅠ	人前で自分の意見を的確に伝える「パブリックスピーキング」の技術を習得する。発声の基本練習を通して、自分の滑舌やアクセントを改善する。毎回授業でスピーチの練習を行い、魅力的かつ説得力にあふれる話し方について研究し身につける。就職活動に不可欠な自己PR、コミュニケーション能力を高める	公の場で説得力のあるスピーチができる。スピーチ時に伴う緊張感を、自らコントロールできるようになる。就職活動の面接でより高度な自己プレゼンテーションを行う。パブリックスピーキング前期では主に「音声表現と技術の習得」に重点を置く。なるべく前・後期通年での履修が望ましい。	2	2～	前期	2	体験学習、グループワーク、プレゼンテーション	◎		◎	○
パブリックスピーキングⅡ	人前で自分の意見を的確に伝える「パブリックスピーキング」の技術を習得し、より高度なコミュニケーション能力を実現する。発声練習を通して、自分の滑舌やアクセントを改善することができる。TPOにふさわしいことばを選び、普段から正しい敬語を使えるようになる。就職活動に不可欠な自己PR能力を高める。	公の場で説得力のあるスピーチができる。スピーチ作成・発表に自信が持て、緊張を自らコントロールできるようになる。就職活動の面接でより高度な自己プレゼンテーションを行う。パブリックスピーキング後期では主に「話しことばの選び方・正しい敬語の使い方」に重点を置く。	2	2～	後期	2	体験学習、グループワーク、プレゼンテーション	◎		◎	○
メディア論	デジタルカメラや携帯電話のカメラ機能など、身近な存在である写真だが、身近だけに逆に写真というメディアの意味が見失われているように思われる。写真は時として大きな力をもってしまふ。その力とは何なのか。本講義では、まず、写真がどのようなメディアなのかについて、さまざまなジャンルの写真を題材に、写真の歴史、画像の読解などの基本的な事柄を学んでいくことから出発する。さらに、出版メディア(主に新聞)の分析を通して、写真を他のメディアがどのように使っているのかを具体的にみていくことが本講義のねらいである。	本講義を通じて、写真のもっている力、メディアのなかでのリアリティがどのように構成されているのかを考える方法を身につけることが本講義の目標である。	2	1～	前期	1	体験学習、調査学習	◎	○	◎	
新聞論	国内外で日々生じるさまざまなニュースの受け止め方、新聞の読み方を学びながら、情報を選別し活用する力をつける。	どんな情報が、なぜ、どのように発信されているか。情報の真偽を見分け、読み解き、使いこなせるようになる。	2	2～	前期	2	調査学習、グループディスカッション	◎	○	△	○
放送論	日々発信される多様な情報の真偽をどのように見分け、どのような視点で読み解いていけばいいのか。放送メディアが伝える日々の情報を素材に、近・現代史上の出来事と放送のかかわりなども検証しつつ、学んでいく。	放送メディアのニュース報道から、現代社会の動きを速やかにとらえ、情報を正しく分析、把握できるようになる。	2	2～	後期	2	調査学習、体験学習、グループディスカッション	◎	○	△	○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
広告文化論	広告表現の仕組みを理解する。広告を能動的に読む方法論を身につける。広告を消費者として受容するのではなく、制作者の立場から、あるいはコミュニケーション活動の視点から再検討を試みる。	広告表現における歴史を理解する。広告表現の創造性とその記号作用を理解する。	2	2～	前期	2	-	◎		△	○
広報論	広報は、企業、行政、大学にとって重要な役割を果たしている。広報という行為には、広く知らせる役割と広く聴く役割、すなわち公聴の役割が不可欠である。情報を効率的に分かりやすく伝えるためには、どのような方法が実践されてきたのか、歴史的な脈を踏まえながら、その仕組みを理解していく。	広報と広告の違いを理解する。プロパガンダと情報操作について学ぶ。	2	3～	後期	2	-	◎	○		○
コミュニケーション産業論	現代の視聴覚文化は、言語表現にとどまらず、映像、図像など多岐にわたっている。本授業では、それら現代視聴覚文化のうち、特にコミュニケーションに関わる産業の側面について、各業界の第一線で活躍する講師による講義とワークショップを通じて、受講生の知見を広めることを目的とする。	コミュニケーション産業について、具体的な事例を通じて理解を深める。	2	2～	前期	2	グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション		◎	◎	◎
マスコミ文章演習Ⅰ	調べ、考え、書き、伝える—という文章による表現力、コミュニケーション力をつける。	日々起こる出来事の概要やそのことへの思いを素早く、分かりやすい文章にまとめ、伝えられるようになる。	2	2～	前期	2	体験学習、グループワーク	◎	◎	△	○
マスコミ文章演習Ⅱ	どんな事象も簡潔にわかりやすく、かつスピーディに文章化できるようになる。	「取材して書く」「思考を整理して書く」「読み手を意識して書く」取り組みをレベルを上げながら積み重ね、筆力をつける。	2	2～	後期	2	体験学習、グループワーク	◎	◎	△	○
日本のアニメーション	日本におけるアニメーション制作は、映画制作の歴史と同じほど古く、第二次世界大戦以前から、さまざまな作品が公開されている。本授業では、日本におけるアニメーションの歴史的展開を概観しつつ、具体的な作品視聴を交え、映画の鑑賞力を養う。	1, 日本アニメーションの歴史的展開を理解する。 2, 作品の成立した時代的・社会的背景をふまえて、作品を鑑賞する姿勢を身につける。	2	2～	前期	2	グループ・ディスカッション、グループワーク	◎		○	○
世界のアニメーション	アニメーションはさまざまな国で作られており、その歴史も映画制作の歴史と重なるほど古い。本授業では、アニメーションの歴史を映画以前の視覚玩具や光学装置から読み起こしつつ、具体的な作品視聴を交え、世界のアニメーションの歴史的展開と空間的広がりを瞥見する。	1, 世界のアニメーションの歴史的展開を理解する。 2, 作品の成立した時代的・社会的背景をふまえて、作品を鑑賞する姿勢を身につける。	2	1～	後期	1	グループ・ディスカッション、グループワーク	◎		○	○
映像文化研究A	「聖地巡礼」が流行語大賞に選ばれるなど、最近、アニメを中心に映像作品の舞台を訪問する観光が脚光を浴びている。この流れを文学やマンガなどを含めたコンテンツと、その舞台あるいは関係する場所とのかかわりとして捉えると、単なる流行を越えた広く重要な問題が浮かび上がってくる。この授業では、そのような地域とコンテンツのあり方について、具体的な事例を交え、従来述べられてきた観光や地域振興の側面にとどまらず、広くさまざまな関わり方を考察する。	1, アニメーション、実写映画、文学作品など、さまざまなコンテンツに親しむ姿勢を身につける。 2, コンテンツを地域の観点から鑑賞する力を身につける。 3, コンテンツと地域との関わり方の多様性について理解する。	2	2～	前期	2	グループ・ディスカッション、グループワーク	◎		○	○
映像文化研究B	現代の日本の視聴覚文化においては、アニメーションは大きな比重を占めるに至っている。しかしながら、膨大な作品が次々と発表されるなかであって、アニメーションがどのようなものであるかについて、改めて考察する機会が乏しい。そこで、本授業では、現代日本を代表するアニメーション作家である宮崎駿の監督作品をとりあげ、具体的に検討を加えることを通じて、アニメーションの特質と魅力に迫りたい。	1, 具体的な作品の検討を通じて、アニメーション映画の鑑賞力を身につける。 2, 宮崎駿作品における運動の表現の特質を理解する。 3, アニメーション映画の魅力を理解する。	2	2～	後期	1	グループ・ディスカッション、グループワーク	◎		○	○
マンガ文化史Ⅰ	敗戦直後から日本漫画が大衆文化の王道となっていくまでの時代についての理解を深める(受講生は戦後の漫画、ことに今まで自分が読んでこなかった時代・ジャンルのものをよく読んでおくことを推奨する)。	日本漫画の変遷について、時代背景やメディアの変化、若者文化等々からたどり総合的に理解できることを目指す。	2	2～	前期	2	体験学習、グループ・ディスカッション	◎		○	○
マンガ文化史Ⅱ	1970年代以降の漫画文化充実期についての理解を深める(受講生は戦後の漫画、ことに今まで自分が読んでこなかった時代・ジャンルのものをよく読んでおくことを推奨する)。	日本漫画の変遷について、時代背景やメディアの変化、若者文化等々からたどり総合的に理解できることを目指す。	2	2～	後期	2	体験学習、グループ・ディスカッション	◎		○	○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
マンガ表現論Ⅰ	本講義では、まずマンガのなかの時間がどのように構成されているのか、をさまざまな観点から考えていくことを第一の目的とする。マンガにおける時間は基本的にコマによって構成されている。コマは物語の時間を分割し、それらを効果的に再配置するものである。同一の場面でも、どのようにコマを再配置するかによって、まったく異なった表現となる。さらに、そのなかで音声の表現がどのように表現されているのか、どのような効果をもつのか、について考えていくことを第2の目的とする。ただし、マンガといってもさまざまなジャンルに分岐しており、それらを概括的に考えることは容易ではない。読者層やストーリーの違いによって、物語の構成、音声の表現方法などが異なってくるのは当然だといえるからだ。そこで、マンガのなかの時間や音声の分析に際しては、複数のマンガを場合に応じて適宜扱うことにする。	マンガを考えることは、図像テキストと文字テキストの解読方法、物語論など、さまざまな分野の知識が必要とされるもので簡単に理解できるものではない。漠然とマンガが好きとか、簡単そうというだけではなく、マンガを一つの表現方法、学問領域としてとらえ、意欲をもって講義にとりくむことを到達目標とする。	2	3～	前期	3	体験学習、調査学習	◎		○	○
マンガ表現論Ⅱ	マンガにおけるキャラクターの存在は、物語を分析するうえで大きな意味をもつ。逆にいえば、キャラクターなくしてマンガの物語は成立しない。いわば、キャラクターは物語の構成要素としてマンガのなかで位置づけられているのである。キャラクターというものに注目することでマンガのなかの世界がどのように構成されているかを知ることができる。以上の点をふまえたうえで、マンガのなかの登場人物、キャラクターに注目し、それらがどのように物語のうえに位置づけられるのかについて、さまざまな観点から考えていくことが本講義のねらいである。	漠然と、マンガだから簡単そう、このキャラクターが好き、というだけでなく、マンガを一つの表現方法、学問領域としてとらえ、考えていくことが本講義の到達目標である。かつ、毎回テーマと関連するキャラクターを探すことを宿題とするため、適切なキャラクターを見つけ、物語におけるその意味を考えることで、キャラクターと物語の関係を深く理解することも目標の一つである。なお、講義では特定のキャラクターを扱うのではなく、あくまでも物語の構成要素として考えていくことにするため、多様なジャンルにわたって分析を行うことになる。そのためには、類似のテーマのマンガとの比較や表現の変遷、周辺ジャンルとの関わりをたどることも必要となり、手間や時間がかかることになることを留意してほしい。	2	3～	後期	3	体験学習、調査学習	◎		○	○
演劇入門	この授業では、演劇の入門篇としてせりふを読みます。戯曲やドラマのせりふは、目で追って黙読するだけでは、ごく一部の意味しか理解することはできません。せりふは、実際に声に出して読まれたときにはじめて、リズム、音、テンポ、イントネーション、感情の起伏、隠された裏の意味が分かるように書かれた言語表現だからです。この授業は「自分で感じ、考える」実践的な進め方を目指します。演劇はまた、多様なコミュニケーションを前提とした表現領域であり、究極のプレゼンテーションです。受講生諸君相互の活き活きとした協力関係を期待しています。	戯曲形式の表現を主体的に読み、演技を通じて表現できるようになる。発声を通じた豊かな表現力を身につけ、身体の動きと同調させることができる。演劇を通して、コミュニケーション能力や自己アピール力を向上させ、円滑なチームワークを構築できる。	2	1～	前期	1	体験学習、グループディスカッション	◎			◎
作劇法	演劇にとってドラマ＝物語とはなにか？ わたしたちは、いかなる基準と判断において、その物語を「良い」と考えるのか？ 古代ギリシアのアリストテレスによる『詩学』での議論以来、いまなお可能性の領土を広げ続けている戯曲テキストとそれをめぐる議論＝劇作法について検討します。また体験的に戯曲テキストの書き方／読み方を学びます。	批判的、創造的に戯曲テキストを読み／書くことができるようになる。	2	1～	後期	1	体験学習、グループディスカッション	◎			◎
宝塚歌劇講座A	1914年に兵庫県宝塚市に誕生した、世界に誇る女性だけの劇団に成長した宝塚歌劇団の人気の秘密を、誕生から現在までさまざまな観点から検証すると共に歴史を知る。また、ご当地芸能文化を知ること、兵庫県の大学に通う学生としての「たしなみ」を身に着ける。	大正、昭和、平成の激動の時代を生き抜いた宝塚歌劇団の歴史を知ることによって宝塚歌劇団への理解を深める。また、期末に実施する団体観劇で生の宝塚歌劇を観ることで、授業で得た知識をより確かなものとする。	2	2～	前期	2	体験学習、調査学習	◎		○	
宝塚歌劇講座B	世界に例をみない女性だけの劇団、宝塚歌劇団の人気の秘密を、作品研究という形で検証し、宝塚歌劇団への理解を深める。また、ご当地芸能文化を知ること、兵庫県の大学に通う学生としての「たしなみ」を身に着ける。	宝塚歌劇の代表的な作品をビデオ鑑賞することによって、宝塚歌劇の魅力と独自性に対する理解を深める。また、期末に実施する団体観劇で生の宝塚歌劇を観ることで、授業で得た知識をより確かなものとする。	2	1～	後期	1	体験学習、調査学習	◎		○	

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
観光入門I	「細やかな心配りやおもてなしの心が求められる」ことから女性の活躍の場として最適の産業と言われる観光関連産業は、女性の職域拡大にも大きな期待が持たれている。本授業では、観光に関連する業界を知りその状況と社会的効果を考える。観光入門Iでは『観光の概要』を体系的に学ぶと共に関連する業務『交通運輸業』や『旅行業』等を題材とし知ることにより観光ビジネスの現状と今後の課題を考察し、観光関連産業の現場を理解できるようにする。授業はできる限り具体例を用いて進めていく。又観光関連業務においての雑学的な豆知識をも合わせて紹介をしていく。授業内容が後期に開催する『観光入門II』に繋がっていく為合わせて受講することが望ましい。	本授業では観光学入門として、学生が『観光』を体系的に理解し同時に観光及び観光関連産業に興味と関心を持ち、必要とする基礎知識を身につけ、より専門的な科目の履修に繋げることを目標とする。又その関心が将来ホスピタリティー分野の業種(観光関連産業)への進路を選ぶきっかけ、参考になればと考える。	2	1～	前期	1	課題抽出学習	◎	◎		
観光入門II	細やかな心配りやおもてなしの心が求められることから女性の活躍の場として最適の産業と言われる観光関連産業は女性の職域拡大にも大きな期待が持たれている。本授業では、観光に関連する業界の現状を知り、その状況と社会的影響と効果を考える。観光入門IIでは、まず観光振興策について学び、いろんな観点で振興・促進策を考察する。又国内旅行と海外旅行の魅力(宿泊・テーマパーク・観光施設・プライベート・クルーズ)等の題材より考察し各々の観光関連産業の現場を理解できるようにする。授業はできる限り具体例を用いて進めていく。又観光関連業務において必要な雑学的豆知識をも合わせて紹介をしていく。授業内容が前期開催の『観光入門II』から繋がっており前期と合わせて受講することが望ましい。	各観光関連産業が持つ役割と現状を把握し、それぞれの分野が持つ強み、弱みを考察し分析を行い、現在そして将来にむけての課題と将来性を見いだせる知識と能力を身に付けそれぞれの将来性について考え発表できる力をつけることを目標とする。	2	1～	後期	1	問題解決学習	◎	◎		
ホテル入門	1 宿泊産業の歴史と現状を理解し、ホテル業の使命を学ぶ。 2 ホテルの組織及び職務を学び、全体構造を理解する。 3 実務の基礎知識を学ぶ。	1 ホテルエとしての基本的な心構えを理解する。 2 ホテルの現場で対応できる基礎知識を学ぶ。 3 実社会で通用するマナー等を理解する。	2	1～	後期	1	課題抽出学習	◎	○	○	○
旅の日本文化I	副題「旅と文学」机上で旅をする感覚をもちながら、日本の古典文学・近現代文学に表現された旅、また旅で生まれた文学について考える。 1 古代から現代までの文学作品を取り上げ、その旅の意味や表現をたどり、理解する。 2 日本文学や旅についての知識をふやす。 3 旅について考える。主体的に考えるために途中から受講生の発表も入れていく(ただし受講生数による)。	1 旅という視点から、日本文学・文化を見直し、理解できる。 2 旅や旅の伝統について主体的に考え、アプローチできる。	2	3～	前期	3	体験学習、発見学習	◎		○	○
旅の日本文化II	副題「旅と宗教」机上で旅をする感覚をもちながら、旅先で目にする国宝への関心を導入部分として、日本の伝統的な信仰や信仰の旅・旅先で出会う地域の伝統文化(主に沖縄を取り上げる)などについて考える。主体的に考えるために途中から受講生の発表も入れていく(ただし受講生数による)。	1 旅とかかわる日本の宗教文化・地域文化や旅についての知識を会得し、考察できる。 2 日本文化の魅力や奥深さについて理解できる。	2	3～	後期	3	体験学習、発見学習、 プレゼンテーション	◎		○	○
神戸文化論A	神戸の国際都市としての側面について知り、現在そこで生活していることの意義を理解できるようにすることを目的とする。	・神戸の国際都市としての特徴と歴史について説明できる。 ・神戸のモダニズムに触れることで、都市や文化に対する視野が広がる。 ・神戸に関する物語を読むことで、神戸に対する興味を持ち、さらに文学作品と地域について自分の意見が述べることができる。	2	2～	前期	2	調査学習、発見学習	◎		○	
神戸文化論B	地方都市としての神戸の歴史と文化について知り、地域と文化との関係について理解できるようにすることを目的とする。	・神戸の国際都市としての特徴と歴史について説明できる。 ・神戸のモダニズムに触れることで、都市や文化に対する視野が広がる。 ・神戸に関する物語を読むことで、神戸に対する興味を持ち、さらに文学作品と地域に	2	1～	後期	1	調査学習、発見学習	◎		○	

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
観光実践論Ⅰ	この授業では旅の持つ魅力を『国内添乗員の仕事』を事例に学ぶ。添乗員は旅行会社の顔であり、旅行のプロとしてお客様に旅を楽しませ、感動を与える職種である。個人的な旅行の場合でも添乗員が備え持つ姿勢で旅に接すれば一段と大きな旅の成果を得ることができる。楽しい旅をしながら幅広い知識を得るノウハウを身につけることを授業の目的とする。	①知識・理解の観点：旅行業法・旅行業約款に定められた添乗員の役割を説明できる ②思考・判断の観点：旅行中トラブル発生時に添乗員がとるべき対応を参考に緊急時に自身が的確な判断をくだすことができる。 ③関心・意欲の観点：『旅の演出家』という添乗員の役割を身につけ、プライベートな旅行で『自らの旅』を演出できる。 ④接客態度の観点：臨地授業や実習をとおして添乗員の「おもてなしの心」ホスピタリティー精神を学び、自らも人間相互の心の通った交流を行うことができる。	2	2～	前期	2	国内臨地体験授業	◎			◎
観光実践論Ⅱ	前期の『観光実践Ⅰ』では、「国内旅行」の添乗知識を学んだが、後期の『観光実践論Ⅱ』では「海外旅行」の添乗について学んでいく。この授業では海外添乗業務に関する基礎知識と実務の学習を通して海外の文化・芸術・社会に対する理解を深め、社会生活で重要性を増している国際交流の意識を身につけることを目的とする。加えて海外個人旅行に役立つ生きた知識を学ぶ。この授業では臨地授業として「学外実習」を計画しており、交通費として3,000円程度が必要となる。又『観光実践論Ⅱ』は前期の『観光実践論Ⅰ』で学んだ知識をベースに授業を展開するので、前期と併せて受講することが望ましい。	①知識・理解の観点：世界各国の観光資源の持つセールスポイントを理解し的確な説明ができる。 ②思考・判断の観点：海外の風土・風習等の状況を広く学ぶことにより、揺れ動く国際情勢について自分自身の公平な目で考え判断し説明ができる。 ③関心・意欲の観点：『旅の演出家』としての添乗員の役割をも理解し、海外旅行の魅力や楽しさを周囲にアピールができる。 ④接客態度の観点：積極的に旅の計画を作成し、旅行実施時には進行役として率先して行動できるとともに「おもてなしの心」をもちホスピタリティー精神を身につけ心の通った交流を行うことができる。	2	2～	後期	2	臨地空港研修・旅行英語学習	◎			◎
旅行企画論Ⅰ	日本の人口が減少傾向に転じている現在、交流人口の拡大が国や地方の活性化に不可欠な要素となっており、国土交通省や地方自治体が観光振興に力を入れているのは、その理由によるところが大きい。又社会生活で一番無難な話題は『旅行とスポーツ』と一般的に言われており旅行に関する基礎知識は社会の潤滑油としての役割を果たすとともに日本の歴史や文化についての教養を身につける為の基盤となるものである。この授業『旅行企画論Ⅰ』ではまず第1段階として「日本の持つ観光資源」についての基礎知識を身につけ、第2段階では「観光」とその具体的表現である「旅行商品」について学習する。更に最終段階として実際に旅行商品造成の実務を体験し、国内観光全般に対する強い関心と幅広い知識を習得することを目的とする。	①知識・理解の観点：国内旅行商品の特徴を観光資源に関連付けて説明ができる。 ②思考・判断の観点：商品企画にあて必要必要なマーケティング調査資料を分類整理ができる。 ③関心・意欲の観点：「国内旅行商品」について対象となる顧客層を想定した商品コンセプトを構築、提案することができる。	2	2～	前期	2	国内企画商品パンフレット制作体験・国内臨地授業体験	◎	◎		◎
旅行企画論Ⅱ	この授業『旅行企画論Ⅱ』では、日本人の海外旅行を中心に学ぶ。交流人口の拡大は国内旅行に留まらず、国際旅行(海外旅行・外国人旅行)についても必要不可欠なものであり人口減少傾向にある今後の日本は国際交流抜きでは生き延びることはできない。授業では、まず「ユネスコの世界遺産」を中心に世界の観光地についての基礎知識を学び併せて海外旅行の商品造成実務をも体験する。次に「訪日外国人旅行」についての基礎知識を学び、訪日外国人旅行客誘致に何が必要かを考えてみる。海外旅行と訪日外国人旅行の2つの国際旅行を通して、他文化社会を理解し、異文化コミュニケーションを身につけることを目的とする。	①知識・理解の観点：海外旅行商品の特徴・魅力を観光資源に関連づけて説明ができる。訪日外国人旅行を学ぶことにより外国人が抱く日本のイメージを理解し各種資料をもって説明することができる。 ②思考・判断の観点：「海外の国々」の持つ観光の魅力を知り、把握し各観光素材を的確に旅行商品に反映し情報発信ができる。又訪日旅行では、日本の良さ、魅力を把握し的確に発信できる。 ③関心・意欲の観点：「海外旅行商品」について、対象となる顧客層を想定した商品コンセプトを構築、提案することができる。	2	2～	後期	2	海外企画商品企画書制作体験	◎	◎		◎
観光資源論Ⅰ	政府が推進する『観光立国政策』の一つとして、この政策を推進する役割を担う「人材の育成」が挙げられている。将来、観光関連産業を目指す人にとって、観光地理を中心とした『観光資源』に関する知識は必要不可欠なものである。本授業『観光資源論Ⅰ』では、日本全国の主要な観光地の概要(所在地・自然・歴史・文化的意識)に関わる知識の習得に主眼を置く。授業では受講生の観光地・観光資源の理解度と興味・関心度を高めることを目的として映像や画像を積極的に活用する。	この授業の終了の段階には、日本各地の主要な観光資源について、分類・整理し、その所在地・資源の特徴などを資料を用いて簡潔に説明できる力をつける。又旅行関係最高の国家資格である『旅行業務取扱管理者資格』の試験(国内業務『観光地理』や『国内旅行地理検定2級』受験に必要な知識・能力を身につけることを目標とする。	2	2～	前期	2	国内地理サポート作成	◎	◎		

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
観光資源論Ⅱ	政府が推進する『観光立国』政策の項目の一つに、この政策を推進する役割を担う人材育成が挙げられている。将来、観光関連産業を目指す人にとって観光地理を中心とした『観光資源』の知識は必要不可欠だ。『観光資源論Ⅱ』では、世界各国の観光資源(所在地・自然・歴史・文化的意義等)に関する知識の習得を目指す。授業では受講生の観光地・観光資源に対する理解度と関心を高めることを目的として、映像・画像を積極的に活用する。	世界各国の主要な観光資源について、分野・特徴・価値などを分類、整理し、その所在地・資源の概略、特徴などを資料を用いて簡潔に説明できる。この授業の終了段階には、旅行関係最高の国家資格である『旅行業務取扱管理資格試験』(海外実務『観光地理』)や『旅行地理(海外2級)』受験に必要な知識を習得することを目指す。	2	2～	後期	2	海外地理サブノート作成	◎	◎		
インバウンド論	日本の人口減少に伴い、交流人口の拡大は必至であるが、その中でも「訪日観光客の誘致」は必要不可欠な要素となってきた。政府も「観光立国」を命題に掲げ多額の予算を組み、国土交通省「観光庁」を中核とした取り組みを強化している。又民間の観光関連事業者も日本人観光客が減少するなか、必死に交流人口獲得の為、誘致活動を展開中である。この授業は「訪日外国人誘致の取組みと課題」について事例を中心に学習する。又合わせて観光関連産業(航空・鉄道・旅行・ホテル・観光施設など)への就職希望者に役立つ内容も盛り込みで行きたい。	国際化する社会に対応できる知識とノウハウを身につけ「和の精神に基づいたホスピタリティ」を即座に発揮できるレベルに達する力をつける一方で、交流人口獲得の為に必要不可欠となっている訪日外国人誘致に何が必要かを考え、理解し提案できる力をつける。	2	1～	後期	1	課題抽出学習	◎			
プロトコール入門(国際儀典)	1 国際レベルで通用する「プロトコール」(国際儀礼)の基本知識を学び、企業、社会で役立つ様になる。2 就職活動を視野に入れて、社会人としてのビジネスマナーを習得する。	1 プロトコールの基本知識を学ぶ。2 ビジネスマナーの基本知識を学ぶ。	2	1～	前期	1	課題抽出学習	◎		○	○
ホスピタリティ・コミュニケーション論Ⅰ	1 コミュニケーションに関するスキル、事例を通して、ホスピタリティ業界に限らず社会人としての基礎力を養う。2 リーダーシップに関する著書を通して、組織及び人間関係のあり方を学ぶ。	1 ホスピタリティに伴う、直接対面を中心としたコミュニケーション力を鍛える。2 ビジネスシーンのケーススタディから、コミュニケーションを軸にしたホスピタリティを理解する。3 演習や議論、発表を通して、ホスピタリティ・コミュニケーションの実践力を養う。	2	2～	前期	2	課題抽出学習	◎	◎	○	○
ホスピタリティ・コミュニケーション論Ⅱ	1 コミュニケーションに関するスキル、事例を通して、ホスピタリティ業界に限らず社会人としての基礎力を養う。2 リーダーシップに関する著書を通して、組織及び人間関係のあり方を学ぶ。	1 ホスピタリティに伴う直接対面を中心としたコミュニケーション力を鍛える。2 ビジネスシーンのケーススタディから、コミュニケーションを軸にしたホスピタリティを理解する。3 演習や議論を通してホスピタリティコミュニケーションの実践力を養う。	2	2～	後期	2	課題抽出学習	◎	◎	○	○
ホスピタリティ論A	1ホスピタリティの理論について理解を深める。2文化や伝統など、継承されたさまざまな場面におけるホスピタリティの要因や役割を考察する。3社会や企業におけるホスピタリティの役割を理解する。	1ホスピタリティを理論的体系的に理解できるようになる。2文化や伝統などにみられるホスピタリティの意義を理解できるようになる。3実際の企業や社会におけるホスピタリティを理解し、実践できるようになる。	2	2～	前期	2	グループ・ディスカッション、グループワーク、問題解決学習	◎	○	○	◎
ホスピタリティ論B	1ホスピタリティを理解したうえで、どのような人材が望まれるかを考察する。2ホスピタリティと企業・社会との関係を理解する。3実社会におけるホスピタリティの役割、効力を考察する。	1ホスピタリティマネジメントを理解し、望まれる人材がイメージできるようになる。2現代の企業、社会がどのような理由でホスピタリティを必要としているかを把握できるようになる。3実際の企業・社会において望まれるホスピタリティマインドを持つことができるようになる。	2	2～	後期	2	グループ・ディスカッション、グループワーク、問題解決学習	◎	○	○	◎
神戸ホスピタリティ実践論	1神戸の代表的なホスピタリティ産業(ANAクラウンプラザホテル神戸を予定)を訪問し、実際のホスピタリティがどのように提供されているかを視察する。2また、その視察を通して自分の中のホスピタリティマインドをさらに高める。	1現場でのホスピタリティの実践を理解できるようになる。2宿泊業(料飲部門、宴会・ブライダル部門を含む)におけるホスピタリティの役割と効果を理解し、自身にフィードバックできるようになる。	2	2～	前期	2	グループワーク、問題解決学習、発見学習、体験学習、プレゼンテーション	△		○	◎

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
ホスピタリティ・ツアーコンダクター演習	この実習は宿泊を伴う旅行を通じて、ホスピタリティ産業の中核をなす旅行業・運輸機関・宿泊機関・その他観光施設等において、ホスピタリティがどのように実践されているかを観察し、あるいは学生自身がツアーコンダクターの仕事を経験し、それぞれを議論・評価することによって“あるべきホスピタリティ”に対する理解を深めることを目的とする。この実習は宿泊を伴う旅行を通じてホスピタリティ産業の中核をなす旅行業・運輸機関・宿泊機関・その他観光施設等において、ホスピタリティがどのように実践されているかを観察し、あるいは学生自身がツアーコンダクターの仕事を経験し、それぞれを議論・評価することによって“あるべきホスピタリティ”に対する理解を深めることを目的とする。	1. 知識・理解の観点:実習での体験を通じて、観光産業で実践されているホスピタリティの概略を系統的に整理・説明することができる。 2. 思考・判断の観点:ホスピタリティを提供される旅行者としての立場でその評価を行い、あるべきホスピタリティをまとめる。 3. 関心・意欲の観点:実習の機会を活用して自身が考える“あるべきホスピタリティ”の実践を試み、その適否について議論する。	2	2～	後期	2	添乗業務体験学習、ホスピタリティ実践学習・テーブルマナー体験グループ・ディスカッション、	◎		◎	◎
ホスピタリティ・マネジメント論Ⅰ	1 ホスピタリティ・インダストリーの概況及び経営構造を学ぶ。 2 ホスピタリティ・インダストリーを通じて、コンプライアンス、CSR(企業の社会的責任)等、現代企業の課題を学ぶ。3 就職活動を視野に入れて、社会人基礎力を養う。	1 企業の基礎的仕組みや、基礎的用語について、具体的な事象で理解する。 2 現代の企業の課題について、具体的に説明できるようになる。	2	3～	前期	3	課題抽出学習	◎	○	△	◎
ホスピタリティ・マネジメント論Ⅱ	1 ホスピタリティ・インダストリーの概況、経営構造を学ぶ。 2 ホスピタリティ・インダストリーを通して、リーダーシップ論、プレゼンテーションスキルを養う。 3 就職活動を視野に入れて、社会人基礎力を養う。	1 企業の基本的な仕組みや、基礎的用語について、具体的な事象で理解する。 2 現代の企業の課題について、具体的に説明できるようになる。	2	3～	後期	3	課題抽出学習	◎	○	△	◎
エアラインビジネス入門	(1)企業というものが、何を目的として存在しているのかというビジネスの基本を社会貢献活動なども含めて、航空会社を通じて理解する。 (2)航空業界の成り立ちやその基盤となっている仕組みや政策などを理解する。	航空産業の全体像と航空会社の存在意義、更には現代社会における企業のあり方やビジネスの基本を理解することで、就業意欲を高め、社会において活躍する際の必要となるビジネスの基礎を習得する。	2	2～	前・後期	2	目標管理制度などの企業の人事施策の理解に向けて学生個々人が目標と目標達成に向けた計画を作成するなど個人参加型の取り組みを取り入れている。	◎	△	○	△
エアラインサービス入門	エアラインのサービスはどの様に成り立っているのか。航空輸送産業の代表的な旅客輸送部門を主に、それぞれの職種を例として取り上げエアラインのサービスの概要を理解することを目指す。	エアライン業界を全般的に理解し、エアラインで提供しているサービス部分に焦点をあわせ、エアラインの業務の構成やサービスに必要な要素を理解すること、さらに、自身の適正を見極め、キャリアプランを描けるように出来ることを目標とする。	2	2～	前・後期	2	毎回の講義のまとめとして「その職種の提供するハードサービス・ソフトサービス」について考察し意見交換を行う。また、自身の考察したことを表現できるように小レポートとして文章化している。	◎	△	△	○
日本語日本文化演習Ⅰ	卒業論文の執筆を視野に入れて、自分の研究分野・研究テーマ、あるいは制作の基本方針を固める。	卒業研究に向けて、自身の問題関心について深く考え、研究テーマとして形にすることができる。卒業研究に取り組むための具体的な準備ができる	2○	3	前期	3	体験学習、グループ・ディスカッション、プレゼンテーション		◎	◎	○
日本語日本文化演習Ⅱ	卒業論文の執筆を視野に入れて、自分の研究分野・研究テーマ、あるいは制作の基本方針を固める。	卒業研究に向けて、自身の問題関心について深く考え、研究テーマとして形にすることができる。卒業研究に取り組むための具体的な準備ができる	2○	3	後期	3	体験学習、グループ・ディスカッション、プレゼンテーション		◎	◎	○
卒業研究Ⅰ	4年間の学修の総括として、卒業研究(論文・制作)に取り組む。	資料収集や資料分析を通じて、問題を正しく把握し、自分なりの方法で結論を導き出すことができる。卒業論文を完成する。	2○	4	前期	4	グループ・ディスカッション、プレゼンテーション		○	◎	◎
卒業研究Ⅱ	4年間の学修の総括として、卒業研究(論文・制作)に取り組む。	資料収集や資料分析を通じて、問題を正しく把握し、自分なりの方法で結論を導き出すことができる。卒業論文を完成する。	2○	4	後期	4	グループ・ディスカッション、プレゼンテーション		○	◎	◎